

九州地方（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

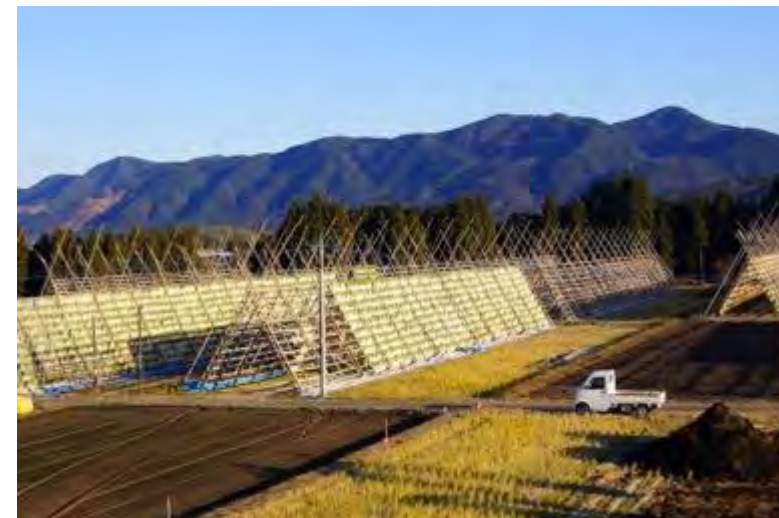
宮崎平野の農業例

宮崎県田野・清武地域

日本農業遺産

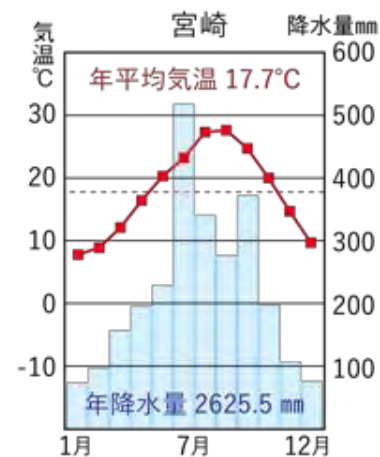
宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム

温暖な気候を生かし、1年を通して屋外で育てる野菜、露地野菜の栽培が盛んです。そのために必要な畑の栄養豊富な土は、畜産農家と野菜農家が連携してつくってきました。冬の乾燥した西風を利用した「干し野菜」づくりは江戸時代から続く重要な産業です。



地域の地形と気候

田野・清武地域は、宮崎平野の南西、鰐塚山系のふもとに位置する宮崎平野を形成する地域です。暖流である黒潮の影響を受け、年間の平均気温は17.7℃と高く、1年を通じて温暖な気候です。



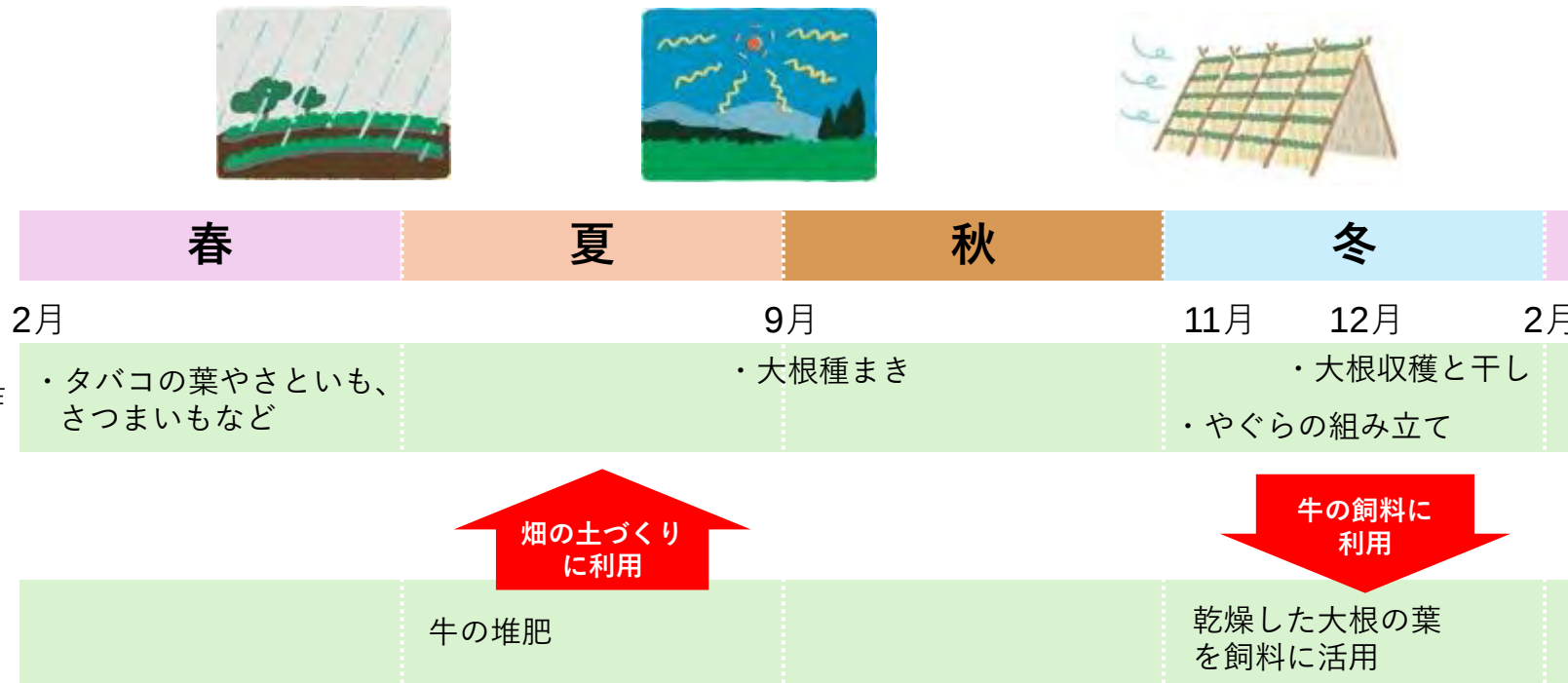
九州地方（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

農業の特徴（高度利用システム）

高度利用
システムって
どういうこと
かな？



畑 露地野菜の耕作



干した大根の葉を食べる牛



納屋で営巣するツバメ

気候風土に合わせた農業は環境にもやさしく、生きものにとってもすみやすい環境が保たれています。その例が、この地で冬を越す“越冬ツバメ”です。ツバメは冬になると昆虫が多い南の地方に渡っていきませんが、この地域では渡りをせずに、子育てをする姿が毎年、見られます。

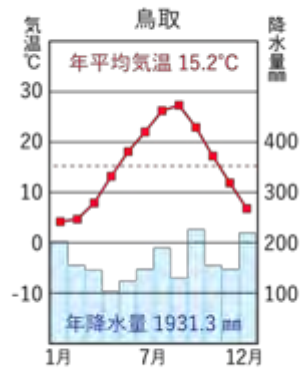
中国・四国地方（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

降水量の違いに
注目して各地を
比較してみよう！
気候の違いが
分かるよ



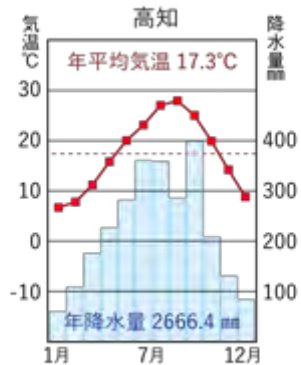
中国・四国地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

中国・四国地方は、中国山地と四国山地を境に大きく3つの地域に分けられ、気候も異なります。



山陰

日本海に面し、北西からの季節風の影響で冬に雨や雪の日が多く、特に山沿いを中心にたくさん雪が降ります。



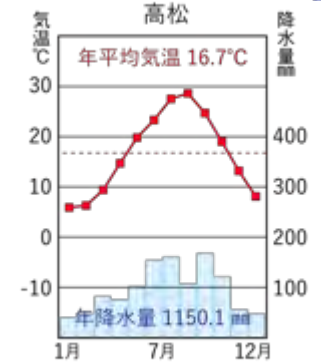
南四国

太平洋に面し、黒潮の影響で1年を通して温暖。夏は南東季節風の影響で降水量が多いのが特徴です。高知平野ではこの気候を生かした促成栽培が盛んです。



瀬戸内

年間を通して晴天の日が多く降水量が少ないのが特徴です。そこで古くから農業用のため池や用水路が整備されました。一方、周囲を陸地に囲まれて波が穏やかなため、魚介類の養殖が盛んです。



豆知識

中国・四国の風



湿った季節風は山地にぶつかり雪や雨を降らせるため、瀬戸内には乾いた風が吹き降る。

山陰の農業例

島根県奥出雲地域

日本農業遺産

「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」

中国山地の山間にある奥出雲地域は、日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の原料である砂鉄を採取するために山を切り崩し、採掘した跡地を棚田に再生してきました。採掘のために導いた水路やため池を再利用して農地（水田）を開発し、現在、和牛を飼養した耕畜連携や森林資源を利用した資源循環型農業が受け継がれています。

地域の地形と気候

奥出雲地域は島根県の南東部に位置し、約1000mの山々を後背として標高300m～500m前後に水田が広がっています。冬季は1mを超える積雪があり、春までの間、森林にはたっぷり水が蓄えられます。

たたら製鉄に由来する循環型農業の歴史

この地域はおよそ1300年前から「たたら製鉄」が始まり、江戸時代には鉄の一大産地でした。「たたら製鉄」は原料の砂鉄と木炭を炉の中で燃焼させることによって鉄を生産する製鉄法です。原料の砂鉄を得るため山を切り崩し、水の流れを利用した方法「鉄穴流し（かんながし）」で砂鉄を採取しました。明治以降、近代西洋式製鉄法の進展により「たたら製鉄」は衰退しましたが、採掘

に使っていた水路やため池を再利用して鉱山の跡地を棚田に再生しました。はじめはやせた土地でそばをつくり、労働力（運搬・農耕用）だった和牛のふん尿を堆肥にして土をつくり、やがて米をつくれるようになりました。たたら製鉄の営みによって鉱山跡地に農地がつくられ、現在も、牛ふん堆肥を使った米づくり、森林を循環利用したきのこ類などの生産といった農業の知恵と技術が受け継がれています。

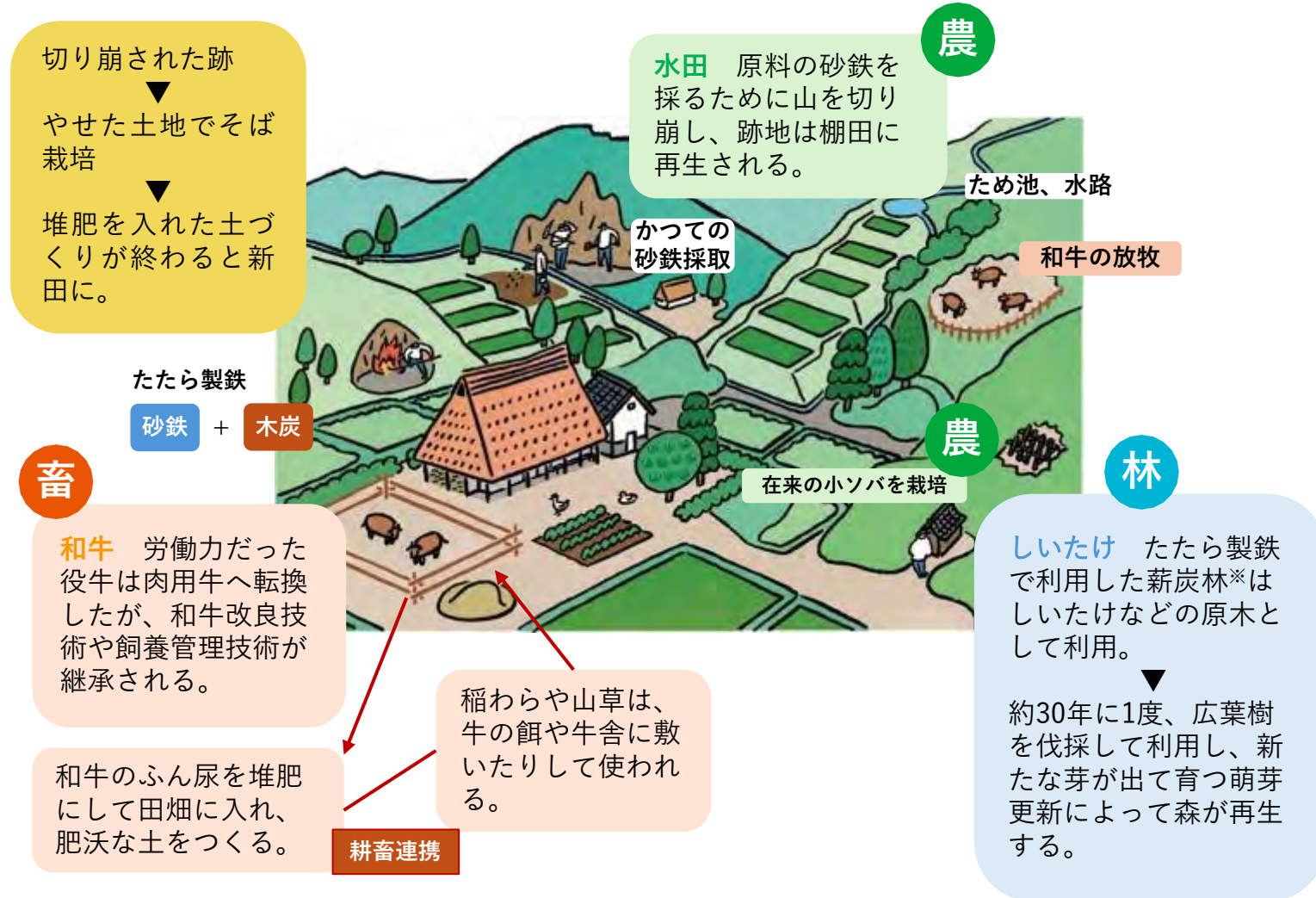


唯一継承される伝統的な「たたら製鉄」



砂鉄採掘跡地につくられた棚田

奥出雲の循環型農業のシステム



循環型農業が生み出す農産物

たたら製鉄とともに育まれた農業は、仁多米、奥出雲和牛、しいたけなどのきのこ類、そばなど高品質な農産物を育み、これらの4品目は町の農業産出額の約9割を占めています。

奥出雲町の農業産出額
(令和2年度)



(奥出雲町 JA 実績ほかより算出)



奥出雲和牛の産地として継承



在来種「横田小ソバ」の花

※薪炭は薪や炭のこと

瀬戸内の農業例

愛媛県南予地域

「愛媛・南予の柑橘農業システム」

日本農業遺産

全国トップクラスの生産量と日本一の品目数を誇る愛媛県の柑橘栽培において、南予地域がその生産量の7割を占めています。特に宇和海岸では、複雑に入り組んだ海岸沿いの急傾斜な山の斜面につくられた段々畑に、厳しい自然条件を克服するための独自の知恵と工夫があります。

日本一の品目数

かつては愛媛県で栽培される柑橘類は温州みかんが中心でした。しかし、和歌山県や静岡県などの他の産地との競争や、1990年代にアメリカ合衆国からオレンジの輸入が自由化されるようになり、安いオレンジが市場に出回ると温州みかんの出荷は大きく減少しました。そこで愛媛県では品種改良を重ね、「愛媛果試第28号（商標：紅まどんな®）」や「甘平」など温州みかんとは収穫時期や味の異なる柑橘類を生産することで他の産地との差別化を図っています。

近年は、新たなブランド柑橘類も生み出され、現在、200もの品種が誕生しています。



柑橘類の主要県の生産状況（令和3年産）

県名	中晩柑類 (t)	温州みかん (t)	合計 (t)	中晩柑割合 (%)
愛媛県	78,520	127,800	206,320	38.1%
うち南予	43,634	110,291	153,925	28.3%
和歌山県	39,327	147,800	187,127	21.0%
熊本県	31,872	90,000	121,872	26.2%
静岡県	4,080	99,700	103,780	3.9%
全国	273,365	749,000	1,022,365	26.7%

※「中晩柑」は、年明け以降に出回る温州みかん以外の柑橘の総称。（農林水産省及び愛媛県調べ）



愛媛県で生産される柑橘類の出荷カレンダー



（愛媛のかんきつ21推進協議会）

地域の地形と気候

日照時間が長く、降水量が少ない瀬戸内の気候は柑橘類の栽培に適しています。特にこの地域は温暖な気候に加え、リアス海岸の急傾斜地であることから水はけがよく、海からの日光の照り返しなども含め日照にも恵まれているため、高品質な柑橘類の栽培に非常に適した条件が揃っています。

独自の柑橘農業システム ～特異な地形条件下での高い持続可能性～

リアス海岸の急傾斜地を利用するために、独自の工夫があります。

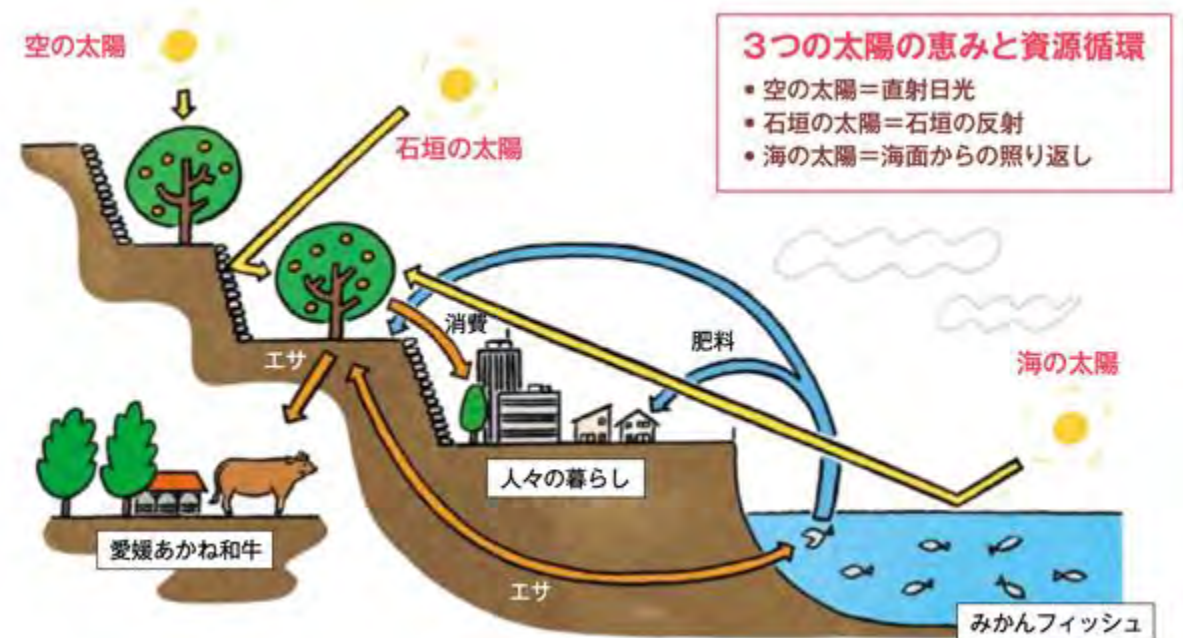
段々畑と石垣

段々畑とその周辺に石垣をつくることで土壌の流出を防いだり、作業の足場になったりと、農作業の負担を軽減します。



防風垣

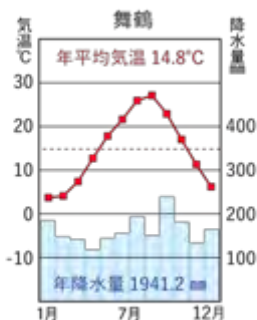
段々畑にスギなどの木を植えて防風垣をつくり、台風や季節風に運ばれる塩水からみかんを守っています。農家は、木の手入れも欠かしません。



近畿地方（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）

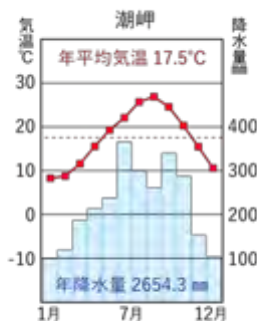
近畿地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

近畿地方は、地形の特徴から3つの地域に分かれます。北部は日本海に面し、なだらかな山地が広がります。中央部は近畿最大の平地が広がり、日本最大の湖、琵琶湖があります。また、南北に延びる山地もあり、山地の間には京都盆地や奈良盆地などの盆地が分布します。太平洋に面する南部には、険しい紀伊山地が広がります。気候も北部、中央部、南部で大きく異なり、それぞれに特色ある農業が営まれています。



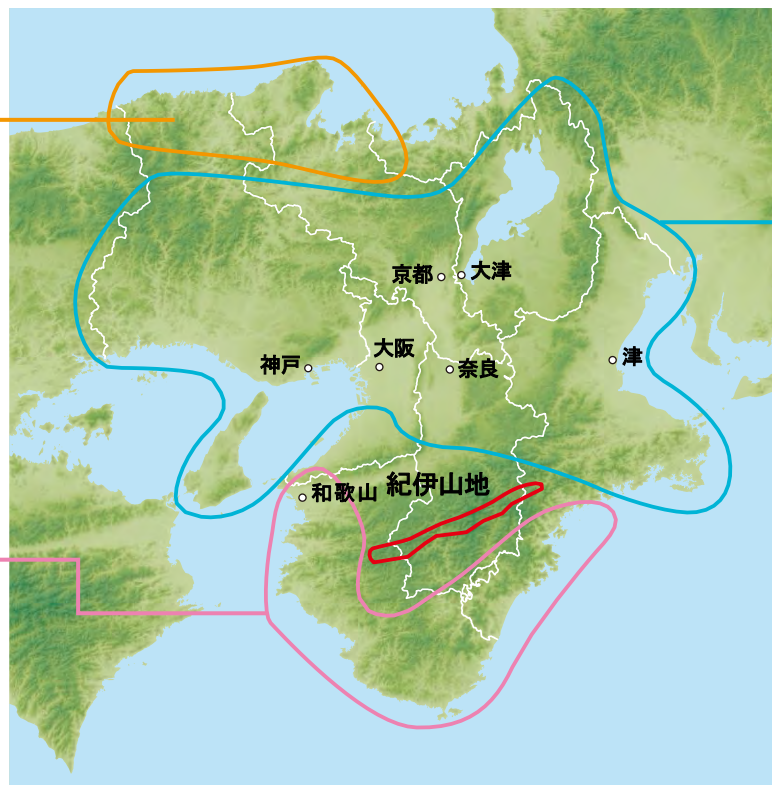
北部

冬は北西からの季節風の影響で、雨や雪が多く降ります。日本海に面した地域ではズワイガニなどの漁業が盛んです。しかし、乱獲などで漁獲量が減少しています。



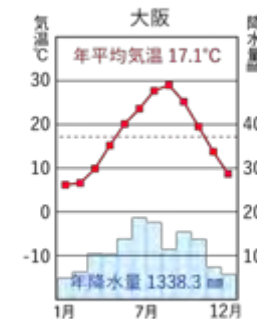
南部

太平洋に面するこの地域は冬でも温暖で、和歌山県ではみかんや梅の栽培が盛んです。紀伊山地は日本でも有数の多雨地帯で、奈良県の「吉野スギ」や三重県の「尾鷲ヒノキ」といった樹木を育てる林業が盛んです。



中央部

平野や盆地を中心に夏の暑さが厳しく、特に内陸の京都盆地は、夏は暑く冬は冷え込み、1年の気温差が大きいのが特徴です。南北を山に挟まれているため、降水量が少なく、琵琶湖などから水を引く疏水といわれる設備や、農業用水の不足に供えてため池が多くつくられました。



中央部の農業例

兵庫県南あわじ地域

「南あわじにおける水稻・たまねぎ・畜産の生産循環システム」

日本農業遺産

農地が少なく、水に恵まれない「島という環境」で発達してきた水を効率的に利用する仕組みを基盤に、耕種農家と畜産農家が連携して行う伝統的な資源循環型の農業が100年以上も続いています。

南あわじ地域の地形と気候

兵庫県淡路島の最南端の南あわじ市は、年間を通じて日照時間が長く、温暖です。雨が少ない上、土地の保水力が乏しい島特有の地形で、降った雨が短時間で海に流れ出て、水不足に陥りやすいという特徴があります。そのため、古くからかんがい設備の整備が進められてきました。



伝統的な乾燥貯蔵施設「たまねぎ小屋」



収穫したたまねぎは、2～3か月つるした状態で乾燥した風を利用して乾燥させる